

## 令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年 国語 99人 社会 99人 数学 99人

理科 99人 英語 99人

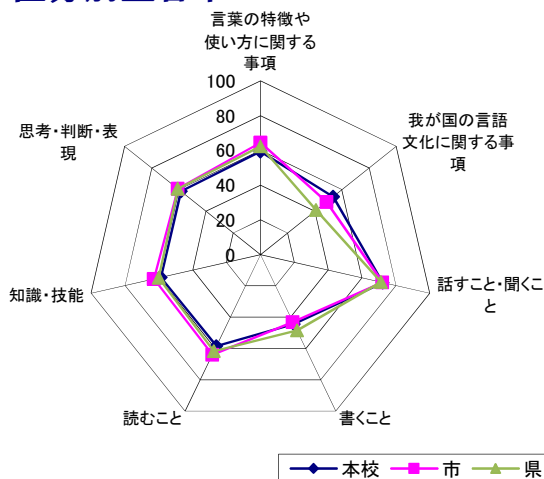
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立城山中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	59.4	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	53.5	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	72.2	72.1	71.2
	書くこと	44.4	43.1	48.5
	読むこと	58.5	63.9	61.8
観点	知識・技能	58.8	62.9	60.1
	思考・判断・表現	58.4	60.8	60.8



## ★指導の工夫と改善

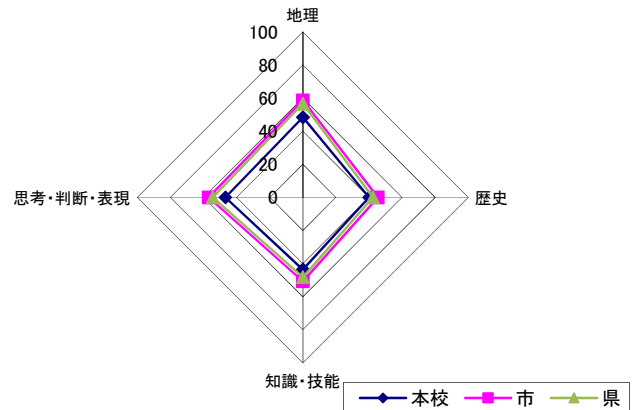
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●この項目では市の正答率を5.1ポイント、県の正答率を2.9ポイント下回っている。	・定期的に漢字や文法の確認テストを取り入れ、丁寧に指導していく。 ・文法については、第1学年の学習内容を絡めて復習する時間を設けて、充実を図る。また、他学年でも復習をする。
我が国の言語文化に関する事項	○この項目では市の正答率を4.8ポイント、県の正答率を12.4ポイント上回っている。	・古典の授業の中で、歴史的仮名遣いや古典特有の表現について重点的に指導し、今後もさらなる定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	○この項目では市の正答率を0.1ポイント、県の正答率を1.0ポイント上回っている。	・話の中で、自分の考えの根拠となる内容を捉えることはできているため、それらを構成に生かし、工夫させる活動を授業に取り入れる。
書くこと	○この項目では市の正答率を1.3ポイント上回り、県の正答率を4.1ポイント下回っているが、本校は市と県と比べ無解答が少なかった。	・昨年度からの取り組みである、以下のことについて、今後も指導していく。 ①条件 ②答え方(論の筋・構成の工夫) ③自分の考えの書き方 ④記述の仕方(論理的な書き方)
読むこと	●この項目では市の正答率を5.4ポイント、県の正答率を3.3ポイント下回っている。	・文学的文章の読み取りについては、登場人物の把握や心情の表現方法の読み取りや注意点を踏まえ、指導していく。 ・読み取った内容について、授業の中で共有をし、様々な考えに触れる機会を設ける。

# 宇都宮市立城山中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	48.4	58.7	56.6
	歴史	40.1	45.4	42.4
観点	知識・技能	43.6	50.7	48.2
	思考・判断・表現	46.8	56.9	54.4



## ★指導の工夫と改善

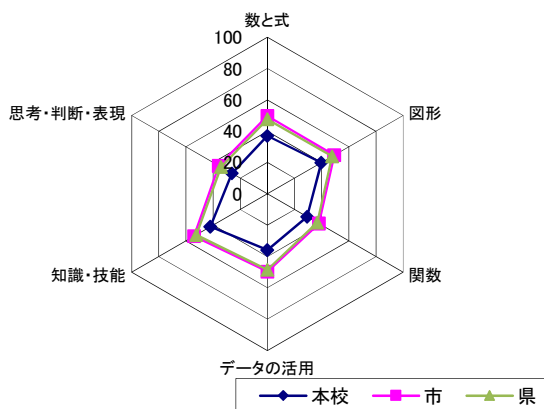
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○「オーストラリアの社会的な変化についてまとめた文章に関わりのないグラフを選ぶ。」の内容は、市の平均を2.3下回っているが、市や県の平均と大きな差がないことがわかる。文に該当する資料を選択する力は割とあることがわかる。</p> <p>○「資料から読み取れるアンゴラの輸出の特徴を記述する。」の内容は、市の平均を3.8下回っているが、市や県の平均と大きな差がないことがわかる。モノカルチャー経済については割と理解していることがわかる。</p> <p>●「世界の各地域の人々の生活について、単元のまとめの文の空欄に当てはまる内容を考えて記述する。」の内容は市の平均を16.3ポイント下回っている。資料から分析し、考察をまとめ表現する力が足りないことがわかる。</p> <p>●「日本の排他的経済水域について述べた文章の空欄にあてはまる内容として適切なものをそれぞれ選ぶ。」の内容は市の平均を15.6ポイント下回っている。表からの情報を整理する力が足りないことがわかる。</p>	<p>・地理的分野全体において市や県の平均を下回っているため、地理的分野の指導を重点的に行う必要がある。</p> <p>・資料から読み取る力が弱いので今後、授業においても資料を活用する課題を多く取り入れたい。</p> <p>・考察をまとめる力が弱いので、課題学習を取り入れ、情報を整理し、自分の考えをまとめる課題を取り入れたい。</p> <p>・一般的に選択問題は解ける生徒が多いが、記述の問題がとけない傾向にある。今後、授業やテストにおいて記述する内容を多く取り入れたい。</p>
歴史	<p>○「足利義満が行った貿易の名称と貿易で銅銭が輸入された理由の組み合わせとして正しいものを選ぶ。」の内容は市の平均を2.7ポイント上回っている。中国の王朝と、通貨の輸入理由についてはよく理解している。</p> <p>○「大化の改新の概要について理解しているかどうかをみる。」の内容は市の平均を0.5ポイント上回っている。飛鳥時代の流れについて理解していることがわかる。</p> <p>●「弥生時代について資料から読み取れる内容を基に、空欄に当てはまる弥生時代の社会の様子について考えて記述する。」の内容は市の平均を19.0ポイント下回っている。複数の資料から情報を整理する力が足りないことがわかる。</p> <p>●「飛鳥時代について複数の資料から読み取れる内容を基に、偽籍が行われた理由を考えて記述する。」の内容は市の平均を15.9ポイント下回っている。複数の資料から情報を整理する力が足りないことがわかる。</p>	<p>・できごとの流れをつかむ内容は、できている生徒も多いので、今後も時代を大きくとらえ、内容を並び替える学習を取り入れ、その力を伸ばしていきたい。</p> <p>・本年度の歴史の状況からも複数の資料から答えを導き出す力が弱いことがわかる。今後授業やテストにおいて複数の資料から必要な情報を整理する学習を多く取り入れたい。</p> <p>・思考・判断・表現に取り組むための基礎的事項の定着が十分でない。資料を読み取るような課題を活用して基礎的事項の定着が図れる工夫が必要である。</p>

# 宇都宮市立城山中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	37.0	49.7	47.6
	図形	39.7	49.2	47.7
	関数	29.3	38.0	36.8
	データの活用	35.9	49.6	48.5
観点	知識・技能	42.0	54.0	52.5
	思考・判断・表現	26.1	35.8	34.1



## ★指導の工夫と改善

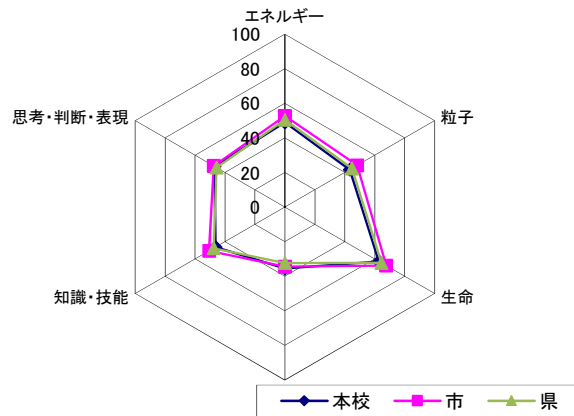
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この領域において、市の正答率より12.7ポイント、県の正答率より10.6ポイント下回っている。</li> <li>●特に「1次式の減法に関する問題」について、市・県との正答率の格差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算の優先順位等、正負の数の四則や文字式の計算の約束、等式の性質について丁寧に指導する。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「図形の移動に関する問題」では、正答率が70.0ポイントを上回った。</li> <li>●この領域において、市の正答率より9.5ポイント、県の正答率より8.0ポイント下回っている。</li> <li>●特に「円とおうぎ形の面積を求めたり比較したりする」問題について、正答率が低く、市・県との正答率の格差も大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物を操作したりデジタル教材を活用したりするなど、視覚的に理解を深められるよう指導を工夫する。</li> <li>・見取り図や展開図をかく時間を十分にとり、イメージする力を高めるとともに、図と「長さ・面積・体積」を表す式とを結びつける指導を丁寧に行うとともに、図形の面積や体積の求め方を定着させるよう指導する。</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この領域において、市の正答率より8.7ポイント、県の正答率より7.5ポイント下回っている。</li> <li>●特に「比例・反比例の関係をを用いて値を求める問題」について、市・県との正答率の格差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象から、比例・反比例の関係を読み取ることができるよう文章読解の場面を増やし指導する。</li> <li>・比例・反比例の表、式、グラフの特徴をおさえるとともに、変数の変域について考えたりグラフを比較したるする活動を通して、読み取る力を高められるよう指導を丁寧に行う。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この領域において、市の正答率より13.7ポイント、県の正答率より12.6ポイント下回っている。</li> <li>●特に「用語が表す意味やその求め方に関する問題」について、市・県との正答率の格差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データに関する用語やその意味について丁寧に指導し、その値を正しく求めることができるようにする。</li> <li>・度数分布表やヒストグラムから、データの傾向を読み取る活動を充実させることで、理由を明らかにし説明することができるよう指導する。</li> </ul>

# 宇都宮市立城山中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	49.1	52.7	50.5
	粒子	43.3	48.3	44.9
	生命	62.8	67.6	64.4
	地球	35.5	34.4	32.3
観点	知識・技能	46.3	50.7	47.6
	思考・判断・表現	47.0	47.6	45.6



## ★指導の工夫と改善

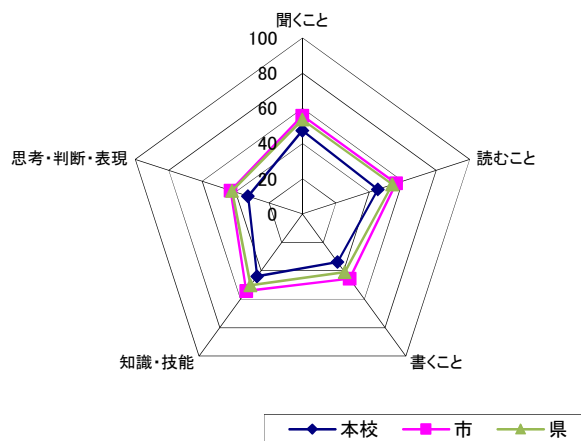
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○弦の太さと振動数との関係から、音の波形を選ぶ問題では、市の正答率を2.0ポイント上回った。 ○音の変化の考察について、あてはまる言葉の組み合わせを選ぶ問題では、市の正答率を3.3ポイント上回った。	・基礎的・基本的な知識の定着を目指す。 ・作図の問題を積極的に取り入れていく。
粒子	○二酸化炭素を発生させる方法と確かめる方法の組み合わせを選ぶ問題では、市の正答率を2.0ポイント上回った。	・基礎的・基本的な知識の定着を目指す。 ・実験器具等の適切な使用の仕方を丁寧に指導していく。
生命	○ブロッコリーの葉と結果の表を比べ、共通点や差異点に基づいて根と子葉の数を数える問題では、市の正答率を0.5ポイント上回った。	・基礎的・基本的な知識の定着を目指す。 ・データの分析から、その規則性を見いだす問題を積極的に取り入れていく。
地球	○地層のでき方と時間的な変化を関連付けて正しい考察結果を選ぶ問題では、市の正答率を12.1ポイント上回った。 ○火成岩の色の特徴から鉱物を選ぶ問題では、市の正答率を9.9ポイント上回った。	・基礎的・基本的な知識の定着を目指す。 ・情報の整理の仕方を身に付ける活動を積極的に取り入れていく。

# 宇都宮市立城山中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	47.4	55.8	53.5
	読むこと	45.2	56.0	53.8
	書くこと	33.9	45.6	40.9
観点	知識・技能	43.9	54.3	50.2
	思考・判断・表現	32.5	42.9	42.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○『聞くこと』の問題では、絵の内容を最も適切に表す英文を選ぶ問題や、適切な対話文の表現を選ぶ問題では、多くの生徒が正答できている。</p> <p>●市の正答率を8.4ポイント下回っている。特に、英語で放送される文の内容を聞き取り、自分の考えを書く問題では正答率が低く、無回答率が高い。</p>	<p>○『聞くこと』を意識した活動を今後も授業の中で多く取り入れることを意識していく。</p> <p>●英文を聴き、問われた内容や与えられた課題を英語で表現する活動を継続的に行う。</p>
読むこと	<p>○『読むこと』の問題では、英語で書かれた文章の大まかな内容を読み取ることはできている。また、与えられた選択肢から適切な答えを選ぶことも概ね達成できている。</p> <p>●市の正答率を10.8ポイント下回っている。特に、英文を読み、適切な語を入れる問題では、正答率が低く、無回答率が高い。</p>	<p>○まとまった量の英文を読む活動を多く取り入れていく。</p> <p>●文章を読み取り、そこから自分の考えや思いを英語で表現する活動を継続的に行う。</p>
書くこと	<p>○『書くこと』の問題では、『出身地』や、『好きなもの』、『できる・できないこと』など、基礎・基本的な表現を使って文章を書くことができている。</p> <p>●市の正答率を11.7ポイント下回っている。特に、与えられたテーマに沿って英作文をする問題では、正答率が低く、無回答率が高い。</p>	<p>○身近なテーマを使って、自分の考えを英語で表現する活動を多く取り入れていく。</p> <p>●英作文の活動に必要な文法の復習や、語彙習得のための学習活動を継続的に行う。</p> <p>●ALTと協力しながら、添削やコメントをするなど、生徒の能力に合わせた適切な支援を行っていく。</p>

## 宇都宮市立城山中学校 第2学年 生徒質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業は自分のためになっている」「学習してみに付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「自分の意見や考えを発表することは得意である」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的割合は、県全体より上回っている。主体的・対話的で深い学びの実現のため、各教科で話し合い活動に取り組んできた結果である。今後とも継続して取り組み、更に深めていきたい。

○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的割合は県全体より上回っている。家での居心地がよく、保護者と良好な関係であることが、本校の素直で明るい生徒の特徴に繋がっている。本校職員は保護者の想いをよく理解し、生徒と関るよう心掛けていきたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」という問いに対しての肯定的割合が県全体より下回っている。家庭学習の大切さを理解する支援を引き続き行い、ご家庭でのご理解・ご協力をお願いしたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、動画、ゲーム、スマートフォンでの通話、メール、インターネットをしますか」という問いに対しての肯定的割合が県全体より大きく上回っている。この結果は「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時間に寝ている」という問いの肯定的割合も県全体より下回っていることと深い関係があると考えられる。スマートフォンの使い方についてはこれからも注意を促し、こちらもご家庭でのご理解・ご協力をお願いしたい。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業の中で自分で考えたり、話し合い活動を取り入れ、言語活動の質的向上をめざす。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の設問で県平均を上回っていた。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の最後に、ふり返る活動をよく行っている」「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」の設問で県平均を下回っていた。	学習目標の明確化と、定着のための振り返りを充実させる。	学習課題と「見通し」から授業の始めに目標を明示し、終わりに振り返りの時間を充実させるよう授業改善を工夫していく。また、基礎・基本を定着させていく。